

記者発表資料

大阪経済記者クラブ会員各位

(社) 関西経済連合会
大阪商工会議所

「第28回経営・経済動向調査」結果について

関西経済連合会と大阪商工会議所では、会員企業の景気判断や企業経営の実態について把握するため、四半期ごとに標記調査を共同で実施している。今回は11月27日から12月6日に1,999社を対象に行い、うち595社から回答を得た（有効回答率29.8%）。

【調査結果の特徴】

1 国内景気について ～足元の景況感▲15.9と2年9ヶ月ぶりマイナス、先行きに不透明感～

2007年10～12月期の国内景気は、「上昇」とみる企業が13.5%となり、前回7～9月期の20.8%と比べ、7.3%ポイント減少。「下降」とみる企業は29.5%で、前回7～9月期の17.1%を12.4%ポイント上回った。その結果、BSIは▲15.9と2年9ヶ月ぶりのマイナスとなった。

一方、先行きのBSIは、2008年1～3月期▲22.1、4～6月期▲10.1で、前回9月の調査で、先行きが10～12月期でプラス21.9%、2008年1～3月期でプラス21.1となっていたことと比較すると、先行きに対する見方が大きく後退する結果となった。

2 自社業況について ～足元の実績見込3.7、先行きはマイナス圏で横ばいの動き～

自社業況の総合判断は、2007年10～12月期の実績見込BSIが3.7と前回7～9月期の▲1.2から微増し、横ばいの動きとなった。

先行きBSIは、2008年1～3月期で▲2.0、4～6月期で▲0.2となっており、マイナス圏での横ばいの動きとなっている。

個別判断では、「生産・売上高」、「経常利益」が、ともに先行きで「減少」が「増加」を上回っており、不透明感がでている。

3 来年1年間の日経平均株価と対ドル為替レートの予想

今回の一つ目の付帯設問では、来年1年間の日経平均株価と対ドル為替レートの予測について質問した。

2008年3月の時点では、日経平均株価15,000～16,000円、対ドル為替レート105～110円を予想する企業が最も多い。一方、2008年12月時点では、日経平均株価16,000～17,000円、対ドル為替レート110～115円を予想する企業が最も多くなっている。

4 来年1年間の国内経済の懸念材料～原材料費の高騰が最大の懸念材料～

今回の二つ目の付帯設問では、来年1年間の国内経済の懸念材料について質問した。

「原材料費の高騰」をあげる企業が最も多く、「米国のさらなる景気低迷」、「中堅・中小企業への景気回復の遅れ」、「ねじれ国会による経済政策運営の停滞」、「円高の進行」が続いている。

以上

【お問合せ】(社) 関西経済連合会 経済・経営グループ (東浦・壺井)

TEL (06) 6441-0102

第28回経営・経済動向調査

(社)関西経済連合会
大阪商工会議所

目 次

概 要

1. 国内景気.....	2
2. 自社業況.....	3
(1) 総合判断.....	3
(2) 個別判断.....	4
3. 2008年の経済の見通しについて.....	6
(1) 来年1年間の日経平均株価の予想水準.....	6
(2) 来年1年間の円/ドル為替レートの予想水準.....	6
(3) 来年1年間の国内経済の懸念材料.....	7

概 要

1. 調査対象
 関経連・大商の会員企業 1,999社
2. 調査時期
 2007年11月27日～12月6日
3. 調査方法
 調査票の発送・回収ともFAXによる
 四半期ごとに実施
4. 回答状況
 595社(うち大企業223社、中小企業372社)
 □企業区分は中小企業基本法に準拠
 有効回答率:29.8%

<今回の調査に関するお問い合わせ先>

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ 東浦・壺井

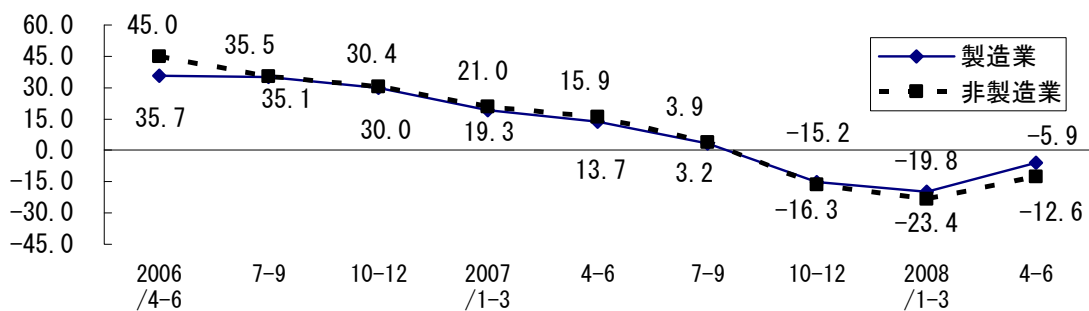
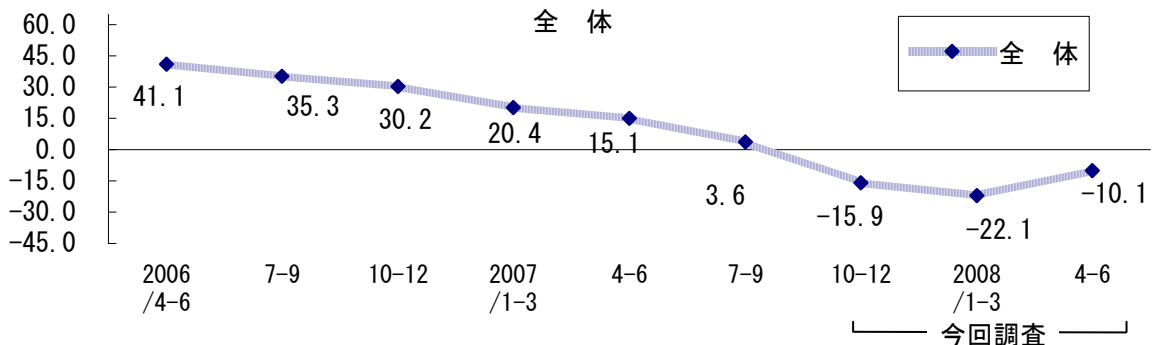
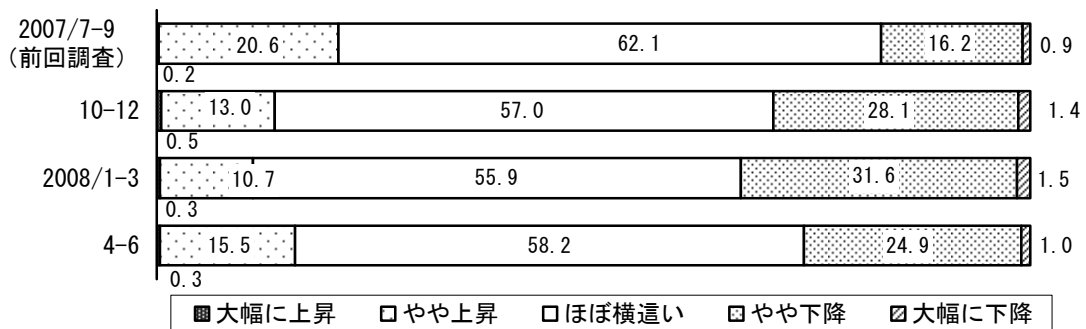
TEL:06-6441-0102

1. 国内景気・・・BSI(10～12月期)は、▲15.9と大幅に下降(約2年ぶりマイナス)

- ・2007年10～12月期における国内景気の実績見込みを「上昇」(「大幅に上昇」「やや上昇」の合計、以下同じ)とみる回答は13.5%となり、前回2007年7～9月期実績の20.8%より7.3%ポイント減少している。また、「下降」(「大幅に下降」「やや下降」の合計、以下同じ)とみる回答は、29.5%となり、前回2007年10～12月期実績の17.1%より12.4%ポイント増加している。

以上の結果、BSI(「上昇」割合－「下降」割合、以下同じ)は▲15.9で、前回の3.6から大きく下降した。(BSIが▲15を下回ったのは、2003年6月以来4年ぶり)

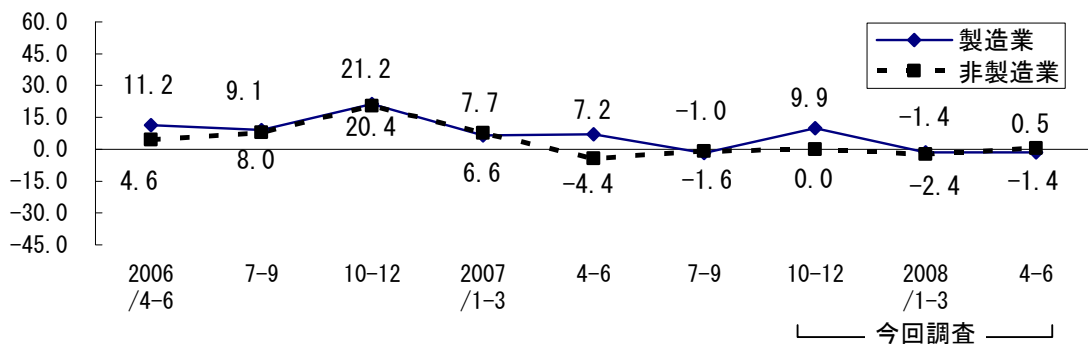
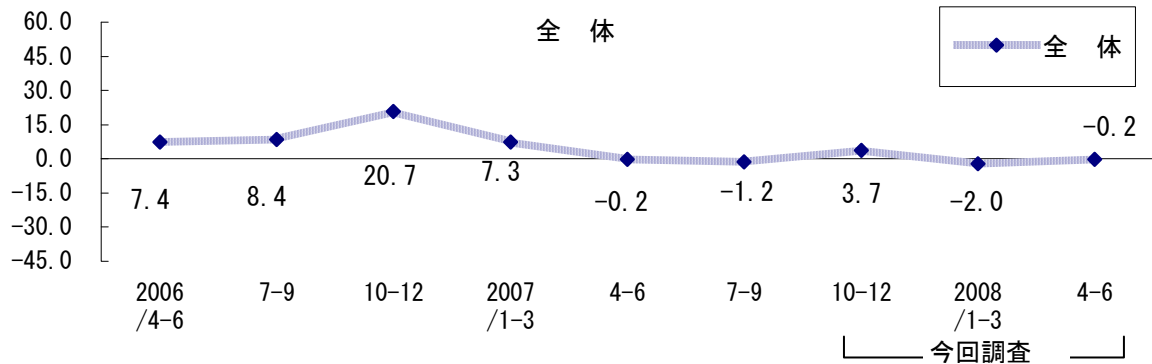
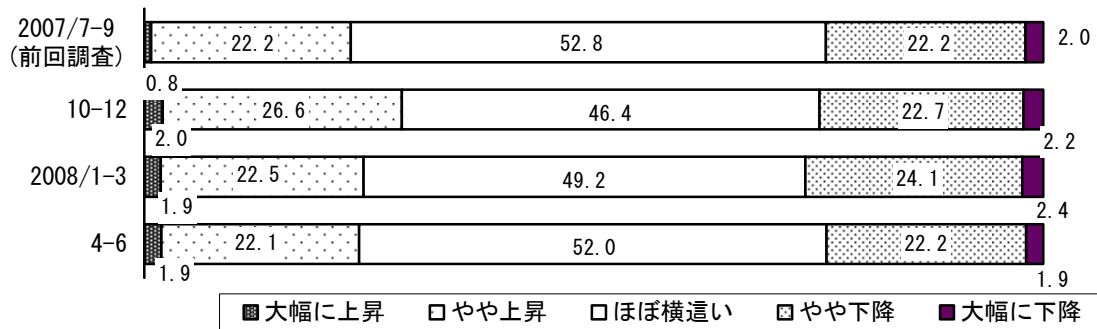
- ・先行きの見通しについて、短期(2008年1～3月期)のBSIは▲22.1と、足元の水準から下降しているが、中期(2008年4～6月期)は▲10.1と下降しており、景気先行きの見通しは横ばいとなっている。
- ・製造業の方が非製造業よりも、実績・先行きともに上回っている。



2. 自社業況

(1) 総合判断・・・BSI(10～12月期)は3.7と微増で、横ばいの動き

- ・ 自社業況の総合判断は、2007年10～12月期における実績見込みのBSIが3.7で、前回実績見込み（7月～9月期）の▲1.2から上昇した。
- ・ 先行きBSIは、2008年1～3月期が▲2.0、2008年4～6月期が▲0.2となっており、マイナス圏での横ばい動きとなっている。
- ・ 製造業、非製造業別では、2007年10～12月期の実績見込みは、製造業が9.9、非製造業は0となった。



(2) 個別判断…生産・売上高や経常利益の先行きに不透明感

➤ 生産・売上高について

2007年10～12月期実績見込みは「増加」が30.0%と、「減少」の24.0%を上回っている。また、先行きは「増加」が「減少」をわずかに下回っている。

➤ 製・商品の価格について

2007年10～12月期実績見込みは「上昇」が27.9%と、「下降」の8.8%を上回っている。

先行きは、「上昇」が「下降」を上回っているものの、「ほぼ不変」とする回答が大勢を占めている。

➤ 経常利益について

2007年10～12月期実績見込みは「増加」が23.4%と、「減少」の30.4%を下回った。

先行きは、「増加」が2008年1～3月期に20.2%、4～6月期に17.9%と下降している。

➤ 雇用判断について

2007年10～12月期実績見込みは「不足」が23.3%、「過剰」が5.4%と、「不足」が「過剰」を上回っている。

先行きは、「不足」が減少しているが、不足感が継続する見込みである。

➤ 製・商品在庫について

2007年10～12月期実績見込みは「過剰」が25.4%で、前回(2007年7～9月期)の22.9%より上昇している。

一方で、先行きは、「過剰」とする回答が減少、「ほぼ適正」とする回答が増加しており、「過剰」感は和らぐと見込まれている。

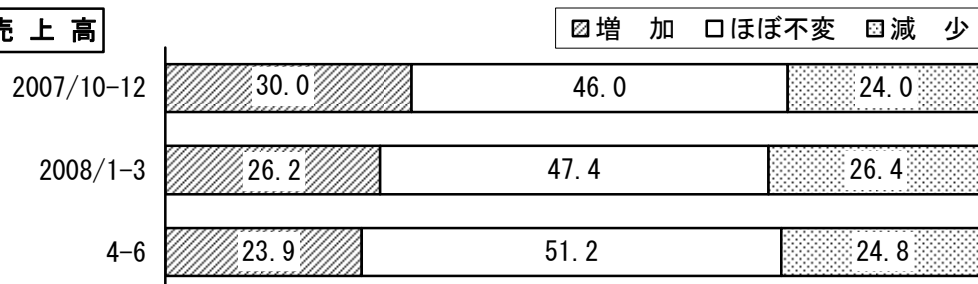
➤ 資金繰りについて

2007年10～12月期実績見込み並びに先行き見通しは、安定推移すると見込まれる。

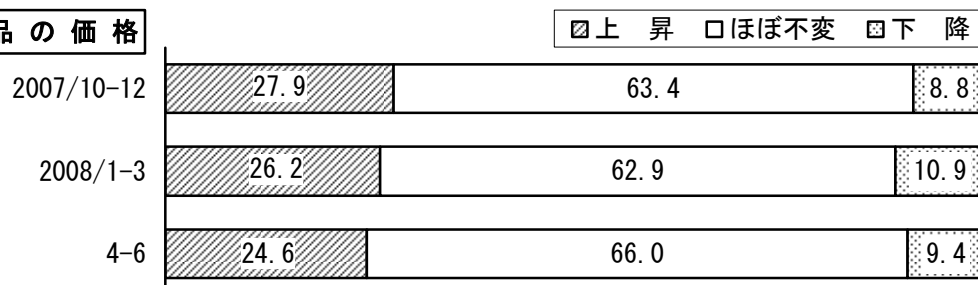
先行きについては、「ほぼ不変」が大勢を占める状況が続いている。

全体集計結果

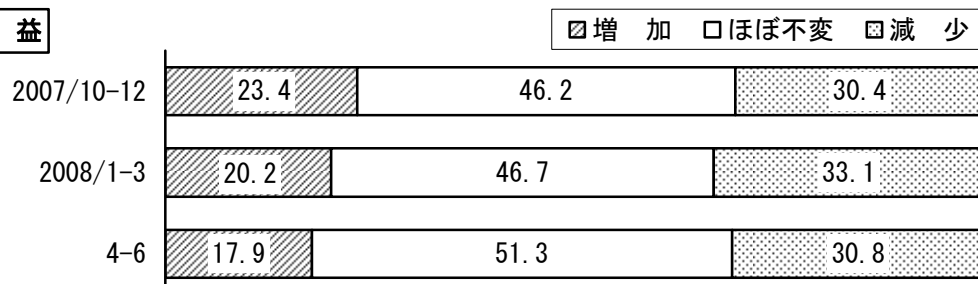
生産・売上高



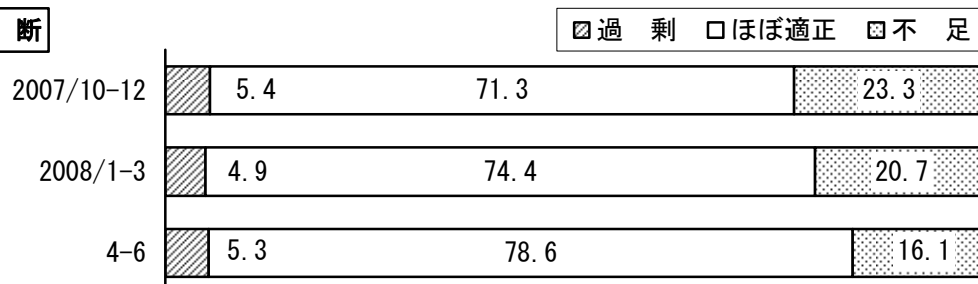
製・商品の価格



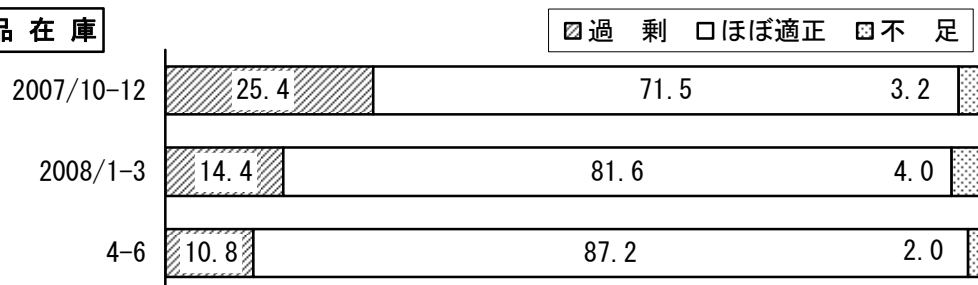
経常利益



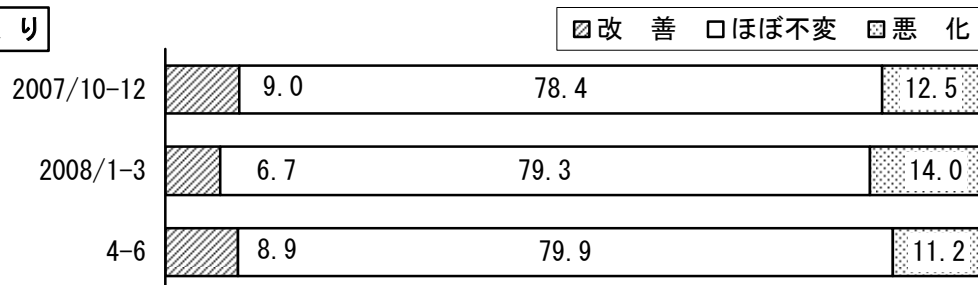
雇用判断



製・商品在庫

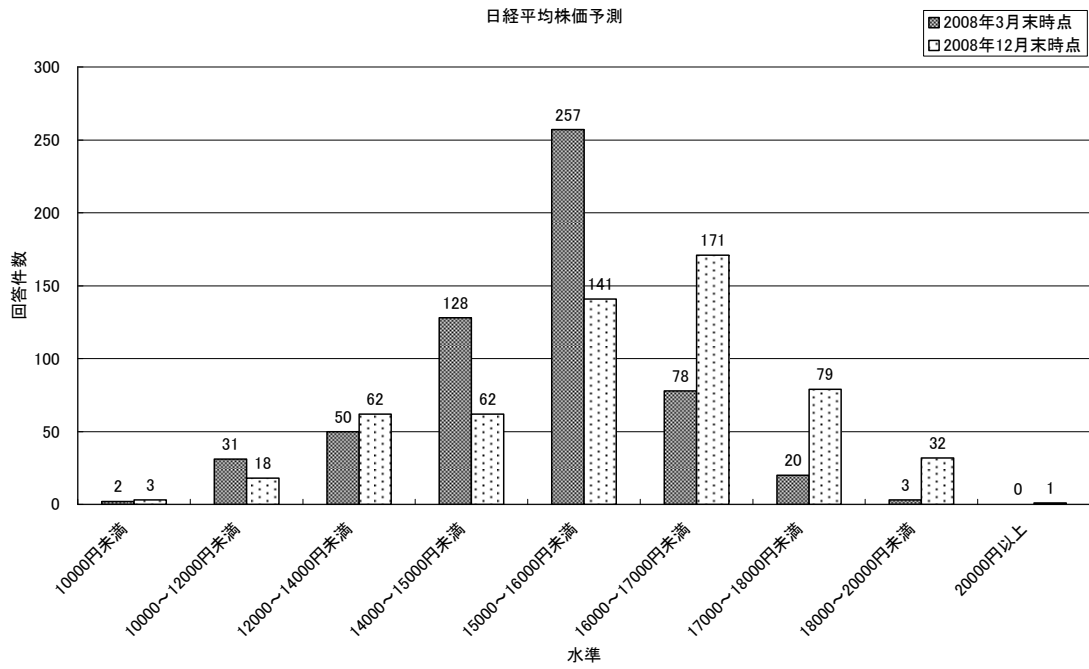


資金繰り

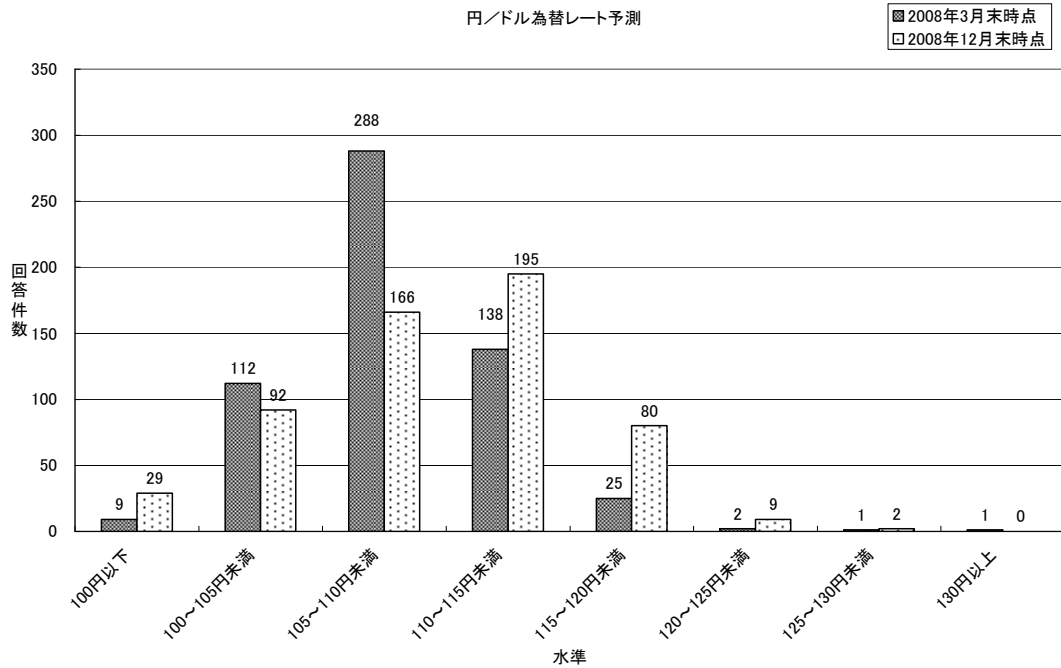


3. 2008年の経済の見通しについて

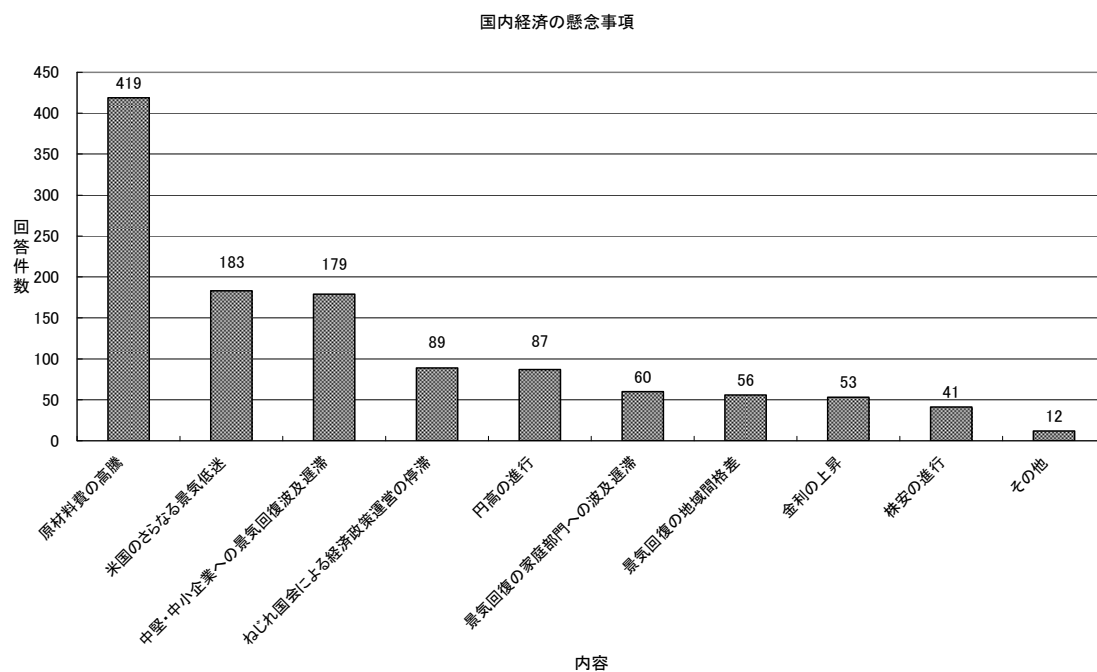
(1) 来年1年間の日経平均株価の予想水準（3月末・12月末時点で1つ選択）



(2) 来年1年間の円／ドル為替レートの予想水準（3月末・12月末時点で1つ選択）



(3) 来年1年間の国内経済の懸念材料(2つまで選択)



以上